

DBSJ ハラスメント防止委員会 を起ち上げました

橋本隆子（千葉商科大学）

ハラスメント防止委員会

設立趣旨

- DBSJ はハラスメントを許しません

- **ハラスメントとは**、性差、性同一性と表現、性的指向、障害、外見や身体的特徴、人種、宗教、公共な場での性的な画像や類する表現、脅迫、ストーカー、望まない写真撮影や録音・録画、不適切な接触、およびそれらに関連した不快な言動、**企業、大学等の組織の立場を** 利用した**学生・研究者へのハラスメント**も含まれます
- ハラスメントを防止するための活動を通して、DBSJに関わる全ての人の基本的人権および尊厳を守り、各自が安心して快適に学会活動に従事できるようにすることを目指します
- 過去の事例に学び、二度とハラスメントを起こさないように予防に努めます
- 起きてしまった（または起きている可能性が高い）ハラスメントについては、迅速かつ適切に対処します

過去の事例

– 環境型セクシャル・ハラスメント

- 労働者の意に反する性的な言動により、労働者の就業環境が不快なものとなったため、能力の発揮に重大な悪影響が生じるなど、その労働者が就業する上で看過できない程度の支障が生じること

事実関係を
尋ねる

性的な内容の発言

情報の流布

性的な関係
の強要

性的な行動

必要なく
身体に触る

わいせつな図画
の配布

傍観せずに。。。。

- 私達にはセクハラが起きないように学会環境を整える義務がある
- セクハラを止めないならば、私達は「責任果たしていない」と言える
- セクハラ「見て見ぬ振り」止めない周りにも法的責任…傍観していた上司、処分した自治体も（兵庫県川西市、2018年）



セクハラが学会にもたらす損失

セクハラは被害を受けた当事者が最大の被害者になりますが、同時にそうした行為を許した学会にも大きな損失をもたらします。

●学会環境の悪化

セクハラ行為に対して甘い、あるいはそれを許すような学会では、確実に学会環境は悪化していき、この分野を研究する人たちに心理的な悪影響を及ぼします。つまり、こうした学会では円滑で快適な人間関係を築くことは不可能になります。

●モチベーションの低下

学会環境の悪化は、当然のことながら研究成果の面にも悪影響を与えます。モチベーションの低下による研究効率の悪化は、この分野の研究推進にも影響を及ぼすことになります。

●人的損失の発生

優れた研究成果を出す研究者の多い学会でも、セクハラ行為により学会環境が悪化すれば、その分野を研究する人の定着率の低下を招くだけでなく、優秀な人材の流出という人的損失につながります。

●学会倫理観の喪失

セクハラ行為を放っておく学会は、基本的に学会としての倫理観が欠如していると考えられます。問題を小さなうちに解決しなければ、それがやがて学会風土となり取り返しのつかないことになります。

●学会イメージの悪化

セクハラは、これまでもしばしばマスコミに登場していますが、大学名等が社会一般に知れ渡ることによってイメージは一挙に悪くなり、そのことによる様々な損失は計り知れません。

●直接的損失

セクハラは時として損害賠償請求などの裁判まで進むことがあります。

困ったことがあったらいつでも連絡してください

ahp@dbsj.org



橋本隆子
takako@cuc.ac.jp



梅本 和俊
umemoto@tkl.iis.u-tokyo.ac.jp



灘本 明代
nadamoto@konan-u.ac.jp



若宮 翔子
wakamiya@is.naist.jp



木俵 豊
kidawara@nict.go.jp



小口 正人
oguchi@is.ocha.ac.jp
(アドバイザー)



中野 美由紀
miyuki@aiit.ac.jp

DEIM2019で多いに
研究を楽しみましょう